# 暖かい家をつくる道を照らし続けて

## 対談・1984～2012年の歩み

創刊1000号の企画として、本紙創業者であり創刊時編集長の白井丞が、最大の支援者だった道券純三氏を往雲館に訪ね、これまでの歩みを振り返った。（2012年5月12日収録）

道券　純三氏
ジェイベック㈱ 相談役

白井　丞
本紙 会長

### 木造戸建てで高断熱・高気密

**白井**　高断熱・高気密をメインテーマにして新聞づくりを始めた、その1番大きなきっかけが道券さんにお会いしたこと。一緒に鎌田先生（室蘭工業大学教授）を訪ね、「北海道の寒い冬の住宅を暖かくしなきゃならん」という使命を担ってやろうと決めました。それにあらゆる面でアドバイスや援助を道券さんからいただいて、さらに鎌田先生には『ザルの在来木造住宅改良』の研究成果を、普及の担い手となる工務店・住宅会社と関連業界へ提言する場として活用していただきました。

**道券**　創刊はいつでしたか。

**白井**　1984（昭和59）年の6月5日が第1号です。

**道券**　アパートやマンションなど大型建物もあったのに戸建住宅に絞っていきましたよね。そこのこだわりは何だったの？

**白井**　マイホーム時代で1番課題があったのは戸建木造住宅でした。

**道券**　ということは、一方で大工さんという対象がいますよね。これに対する取り組みは。

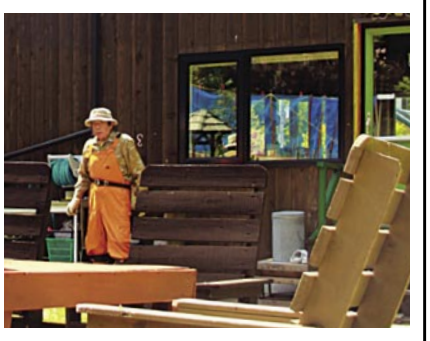
**白井**　大工さんは「読む」というのが苦手な方が多い。関心の高い方は読んでもらえるけど、そうでない人もいる。そこで「耳で聞く」「目で見る」ものなら大工さんたちにも伝えられると思い「北国の家づくりセミナー」を企画しました。一方、住宅業界の中でいろんな成果を皆さんに発表して関心を高め、盛り上げていただくために寒地住宅学校も開催しました。

「いい家を造るには住宅を建てようとするユーザーが関心を持たなきゃ」ということで住宅雑誌を始めました。また、鎌田先生のご協力で、こころざしを同じくする住宅業界の方々の組織として新在来木造構法普及研究協議会を立ち上げ、道券さんには幹事長として、道内各地、さらに北東北・信越にも高断熱・高気密住宅の活動拠点づくりに尽力いただきました。当時は、北海道での成果が本州の寒い地域でも関心を呼び、本州からの建築現場視察会なども活発でした。

### 大きな転換期を迎える

**白井**　「高断熱・高気密・全室暖房・計画換気」の4つの条件を念頭に置いた家づくりは、今どの段階に来ていると思いますか？

**道券**　その4つの条件が建築業界では「やってられない」というのが本音。ユーザーさんは歓迎しているでしょうけど。また、本音がそうだから、建築学科で勉強している学生にほとんど教えてませんね。白井さんは、当時の寒研（現北方建築総合研究所）との距離はどうでした？



同社円山研究所・往雲館にて

『家づくりのこれから』を提言した白井の著書

**白井**　高断熱・高気密を我々が勉強し始めた段階で、寒研はいろいろ研究し成果を発表してました。しかし、住宅トータルとしてどういう性能向上があるかが明確に示されていませんでした。これは現在もまだ示されていないと私は思っています。それをまとめて示したのが『高断熱・高気密を目的とする北海道型改良木造軸組構法』（北国の家づくり研究セミナーのテキスト・鎌田先生）でした。これはスケルトン（構造）だけですけど「こうやって住宅全体を断熱・気密化するんだよ」と示しています。これが北海道の住宅性能を上げていく上で大きな転換期になったと思います。

### 未だに根強い気密化への誤解

**道券**　人間が生きるための3大要素「衣食住」という言葉がありますね。衣食住の「住」は英訳すると家でもホームでもなく、「security」と書いてあります。「安全な休息の場所」と。日本の住宅行政はそういう捉え方をしていないと思うんです。

**白井**　北海道と本州は気候風土が違うのに、家の中の寒さを取り除く工夫は、それまで不十分でした。

**道券**　以前、北海道の有名な研究者の講演後、受講者が質問したんですよ。その時の答えが「それスウェーデンの話ですね、ここは日本ですから関係ありません」でした。私は人間の生理というのは、世界共通だと思うんですよ。スウェーデンだから必要で、日本だからいらないとか変な話です。

**白井**　我々が鎌田先生を支持して高断熱・高気密を新聞でどんどん取り上げる過程で、行政や研究所は「北欧の技術をそのまま真似て、ただ宣伝しているだけで、あんな住宅なんか造ったらとんでもないことになる」と大宣伝しましたよね。寒い北海道の住宅を暖かくすることは一大改革でした。だから高断熱・高気密の主張を支持し続けました。

**道券**　本質は、日本人の持っている家の空気質に関する無頓着さというか、無関心さかもしれませんが…。

**白井**　国の住宅政策もようやく気密化や断熱の強化を言い出しましたが、どうも我々が考えている気密化とは全然違って、結露を防ぐために気密化するというのです。結露を防ぐのも気密化ですけど、だから「そこそこの気密化でいいんだ」という考え方が国の根底にあります。

**道券**　「気密材は押さえてつぶさないと気密にならないよ」って言えばいいのに、重ね幅を15㎝とりなさいとか30㎝とらなきゃとか、変な話になるんです。

### 2×4工法と改良在来

**道券**　ツーバイと在来に対するこだわりはなかったんですか？

**白井**　1985年頃に主に十勝方面で「ツーバイフォーは暖かい」という話が広まりましたよね。在来の断熱・気密工法が暖かいという話はあまり聞きませんでした。このとき、初めてツーバイフォーを意識しました。

**道券**　我々が頑張ってきた在来工法の高断熱・高気密化は、鎌田先生の言葉ですが「大工の技術体系において」という条件のなかで展開しました。つまり、在来の大工さんの持っている技能をベースにして、壁式工法の暖かいポイントである壁の上下密閉を、『気流止め』というかたちで床から小屋裏まで突き抜けている在来工法の壁の中に設置する必要がある。これは鎌田先生の功績です。話は変わりますが、積雪1mを超える札幌という大地に200万人も住んでいるなんて世界にも例がない。寒いところはいっぱいありますよ。オスロやストックホルムだって寒いでしょうけど、雪はあまり降りません。世界的にも類を見ない多雪地札幌のM型無落雪屋根のほかに、雪処理について研究してほしいですね。

**白井**　そうですね。

**道券**　やり残したことがまだあるよ（笑）。ところで初期の目的は達した？

**白井**　形の上ではね。高断熱・高気密、全室暖房、計画換気をやる方はやっておられる。しかし、それがまだまだ整合した形で普及しているとは言えないし、課題もかなり出てきています。確かにまだまだですね。